



実習生が折り紙で作ったひな人形。きぼう校舎 4 階のロビーに展示中です。

企画・編集 澁谷 健司 / 栗又 由利子

3 月に入り、新型コロナウイルス感染による海外からの入国禁止措置が撤廃されてから 1 年が経とうとしています。昨年の入国再開直後は 1 クラス（中国人実習生 14 名）での静かな再スタートでしたが、今では常時 5~7 ヶ国から来た実習生の皆さんが、10 以上のクラスに分かれて日本語学習に励んでおり、各教室から実習生の皆さんの元気で明るい声が聞こえて来る度に、「元気があっての日本語学習」との思いを再認識させられています。

春目前、季節の変わり目に入り、実習生の皆さんには、新型コロナウイルス感染防止も含めた体調管理の大切さを呼び掛けています。

～ 教室でのマスクの着用に関するお知らせ ～



マスクを付けてペアでの会話練習中実習生達

今月はこの紙面をお借りして、当校での今後のマスク着用方針についてお知らせさせていただきます。

今月 13 日より日本政府の見解として、屋内外を問わず、これまでのマスク着用の推奨はなくなることとなりますが、当校では引き続き、授業中のマスク着用の重要性を呼び掛けていくことにしました。感染リスクや重症化のリスクが下がっているとは言え、マスクを付けずに教室で大きな声を出せば、クラスター発生のリスクがあり、また、感染後の隔離期間が長期（発症から 7 日間）に及び、貴重な日本語学習の機会が失われてしまうからです。会話練習時に声が出しづらい、相手の声が聞こえづらい等、授業中のマスクの着用にはマイナス面も多いのですが、実習生の健康を最優先して、当校ではマスクの着用を継続して推奨してまいります。日本語講師・スタッフに関しましても、従来通りマスク着用で業務に当たらせていただきますので、受入団体、実習実施機関の皆様の御来校に際しましても、マスク着用へのご理解をどうぞ宜しくお願い致します。

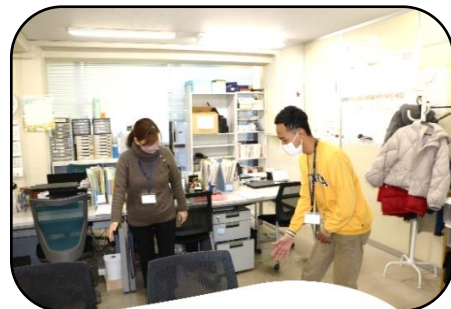
今月の実習生

今月は、人の前を横切る時に、日本人がよくするジャスチャー（右手を前に出して軽く頭を下げるしぐさ）をととても自然に実践している実習生がいて、校内で話題になっていたインドネシアからの実習生 RIZQI MUBAROK(リズキ)さんを紹介します。



笑顔が素敵な好青年リズキさん

はじめまして。わたしはリズキムバロクと申します。インドネシアから来ました。このジェスチャーはインドネシアのがっこうでおしえてもらいました。もうすぐ「かいしゃへい」をまち。わたしはとこもられいです。
にほんのせいかつはおもしろいとおもいます。これから、いつもがんばらなければなりません。



あじけん流日本語授業

～母語を使った授業アイデア～

今月のあじけん流日本語授業は、母語を使った授業アイデアをお伝えします。この活動は、次に入国してくる同じ国の後輩のために、「よく使う日本語」を日本語と母語でポスターにし、新しいクラスの教室に掲示しようという活動です。

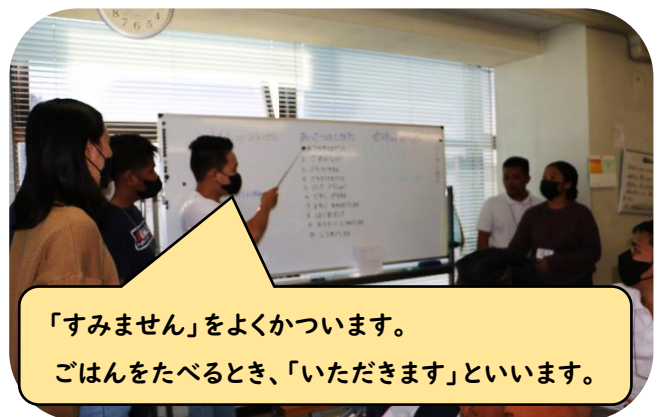
まず、グループに分かれて、それぞれのグループで日本に来てからよく聞く日本語、自分がよく話す日本語を考えます（写真1）。1つのグループで15個くらいの日本語を出してもらいます。そのあと、グループごとに考えた日本語を発表します（写真2）。今回は4つのグループだったので、60個の日本語の表現が出されました。その60個の中から後輩に教えたい表現を15個、各グループのリーダーが選びます（写真3）。その選ばれた日本語表現に母語を付けてポスターにします（写真4）。

この活動は、現時点で身に付いている自分の日本語を振り返るとともに、クラスメートから自分の知らない日本語を学ぶことができます。また、先輩として後輩の役に立とうと思う気持ちが、日本語学習のモチベーションとなります。今回のクラスでは、フィリピン人実習生のみでしたが、多国籍のクラスでは、日本と母国の違いだけでなく、他の国と母国の違いも知ることでできる異文化理解の時間となります。

これからも実習生の日本語へのモチベーションをあげるような、楽しく、そして役に立つ日本語授業を研究してまいります。



写真1：辞書も使いながらよく使う日本語をグループで考えています



「すみません」をよくかきます。
ごはんを食べるとき、「いただきます」といいます。

写真2：グループで考えた日本語を発表します



写真3：リーダーが出てきた日本語から15個厳選します

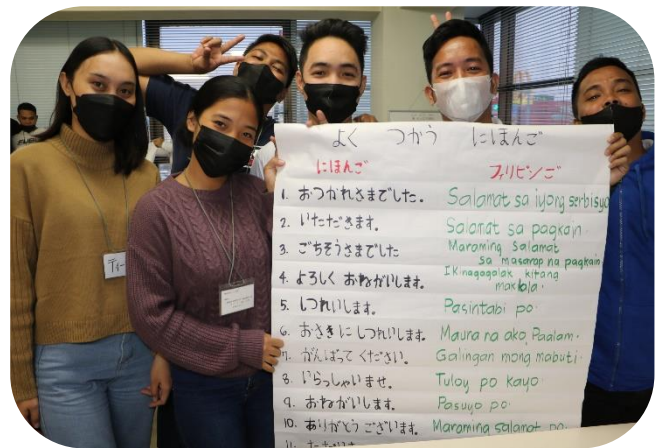


写真4：母語も付けてポスターを作成しました